

**武蔵野大学「登録日本語教員」養成プログラム  
令和7年度 自己点検・評価報告書**

**1. 教育理念・目的およびカリキュラム**

**(1) 教育理念**

武蔵野大学では、日本語教育に関する専門的知識および実践的指導力を備えた日本語教員の養成を目的として、グローバル学部日本語コミュニケーション学科において「登録日本語教員」養成プログラムを実施している。

本プログラムは、仏教の四弘誓願を基盤とする建学の精神および「世界の幸せをカタチにする」という理念のもと、日本人学生と留学生が共に学ぶ多言語・多文化共修環境を特色とし、相互理解と共生社会の実現に資する高度なコミュニケーション能力の涵養を目的としている。

本学科における「登録日本語教員」養成プログラムでは、日本語教育の参照枠等の所定のカリキュラムに基づき、講義・演習・実習を体系的に配置し、日本語教育の理論および実践を段階的に修得できるよう整備している。授業においてはアクティブラーニングを積極的に導入し、異なる言語的・文化的背景を有する学習者との協働的学修を通じて、教育観および学習観の深化を図っている。

また、国内における日本語教育実習や海外インターンシップ等の機会を活用することにより、理論と実践を結びつけた教育を推進している。

なお、令和7年度は開始初年度であったため、開講科目は3科目にとどまったが、次年度以降も計画的に科目を整備し、教育内容の充実を図っていく。

項目	内容
登録番号	・登録実践研修機関:B0241315 ・登録日本語教員養成機関:C0241318
登録年月日	令和7年5月30日
実地主体	武蔵野大学グローバル学部 日本語コミュニケーション学科
所在地	武蔵野大学 有明キャンパス (東京都江東区有明三丁目3番3号)
定員	・養成課程 「登録日本語教員」養成プログラム:330名 ・実践研修 共生日本語教育実習:36名

## 2. 実施した「登録日本語教員」養成プログラムの内容

本事業年度に実施した本プログラムの科目は以下のとおりである。

令和7年度 「登録日本語教員」養成プログラムの開講科目

No	科目名	単位数	履修者数
1	日本語学概論	2	96名（令和7年度入学生）
2	異文化コミュニケーションA	2	96名（令和7年度入学生）
3	異文化コミュニケーションB	2	96名（令和7年度入学生）

実践研修受講者数:0名（※令和9年度開始予定）

令和7年度に開講した各科目は、コアカリキュラムに示された必須項目をすべて網羅したうえで、各科目のシラバスに基づき適切に実施した。また、シラバスには課題の内容および授業時間外に必要なとされる学修時間を明記し、学修内容の透明性の確保に努めている。

## 3. 修了者数および修了時の成績

令和7年度は「登録日本語教員」養成プログラム開始初年度であるため、本プログラムの修了者は存在しない。

なお、履修者の成績評価については、武蔵野大学学則および各科目における到達目標および評価基準に基づき、筆記試験、レポート、実技評価等を総合的に勘案し、厳正に実施した。

## 4. 教員体制および運営組織

### (1) 教員体制

本プログラムにおいては、日本語教育分野に関する高度な専門的知見および実務経験を有する教員が授業を担当し、適切な指導体制のもとで教育を実施している。

専任教員数： 6名

非常勤講師数:3名

### (2) 責任体制

本プログラムの編成および運営に関する責任者は、日本語コミュニケーション学科長が当該プログラム全体の統括責任者として、組織的な運営および編成に責任を負っている。

また、事務面においては、研究支援部学部事務課長が研修事務および養成業務に係る事務全体を統括する事務責任者として業務を執行している。

## 5. 施設・設備

### (1) 事業所所在地

武蔵野大学 有明キャンパス(東京都江東区有明三丁目3番3号)

### (2) 設備状況

教育活動および事務処理に必要となる教室、演習室、情報処理学習施設、研究室、保健室、事務室、および図書館を適切に備え、必要な備品を完備している。

## 6. 運営および内部質保証体制

本事業年度においては、学期末に授業アンケートを実施し、その結果について分析を行った。いずれの科目においても、授業内容は概ねシラバスに沿っており、難易度も適切と評価されている。学生は主体的に授業に取り組み、理解度や満足度もおおむね高い傾向が確認されている。

あわせて、教員間の情報共有等を図り、当該結果を踏まえた継続的なカリキュラム改善に取り組んだ。さらに、「登録日本語教員」養成プログラムの内容および運営全般について、自己点検・評価を実施した。